

科目：日文測驗

系所組：跨文化研究所翻譯學碩士班中日組

注意事項：

1. 解答は、試験専用の解答用紙に記入してください。問題用紙には答えないよう注意してください。
2. 解答用紙の1ページ目に、下のように願書提出時に記入した選択言語名を書いてください。(A言語：_____語 B言語：_____語)
3. それぞれの問題にはすべて日本語で解答してください。翻訳ではありませんので、注意してください。

試験時間は90分です。下記の各問題の内容や配点を確認してから始めてください。

- 問題1 下の二つの文章を読み、それぞれの内容を文章1、文章2とも150字程度に要約してください。ただし固有名詞以外は違う表現で言い換え、箇条書きではなく短い文章としてまとめるようにしてください。(25点×2=50)

文章1

「強い日本」を志向する安倍晋三首相。教育再生はその一環という。今年の年頭所感では「日本に生まれたことに誇りを持ち、高い学力と豊かな人間性を兼ね備えた人材を育てていく」と述べている。

教育基本法で定める教育の目的とは、戦後一貫して「人格の完成」である。最近はその「人材の育成」に貶(おとし)められている。個人の多様な価値ではなく、日の丸経済の歯車としての価値のみを優先する思想の表れだろう。

成熟社会の景色を眺めれば、「強い日本」ではなく「幸せな日本」を目指したい。国家より人間本位の教育こそが重要だと思う。

日本の一人当たりの実質国内総生産(GDP)は五十年余りの間に八倍に増えた。なのに、暮らしの満足度はほとんど横ばいだ。米国の経済学者リチャード・イースタリンが「幸福のパラドックス」と呼んだこの現象は、多くの国々が抱える切実な問題である。

国連の世界幸福度報告書では、世界一金持ちの米国でさえ十七位、二位の中国は九十三位、三位の日本は四十三位。トップはデンマークで、上位十カ国中八カ国は欧州勢だ。

近年の幸福研究では、衣食住が足りていれば、お金、物、地位、名誉ではさして幸福度は高まらない。人との助け合い、地域のつながり、自分らしさを大切にする生き方がカギを握るといふ。子どもの「幸福力」を培う教育への転換を考えるべき時代だ。

(東京新聞「私説・論説室から」より)

文章2

劇作家のバーナード・ショーは「あなたが一番影響を受けた本は何ですか」と聞かれて答えている。「銀行の預金通帳だよ」。— むろんジョークだが、この「本」の記述に一喜一憂（いきいちゆう）したことのない人は先進国にはあまりいないだろう。

世界にはさまざまな信仰や思想信条があり、なかには信じるもののために命も惜しまぬ人がいる。ときに宗教や政治の対立が流血の抗争をもたらす。だがどんなに激しく対立する人々も共に信じているものがある。紙切れにすぎぬお金、とりわけ米ドルの価値である。

そのドルの価値の守護者に史上初めて女性が就任した。米国の中央銀行である連邦準備制度理事会（FRB）の議長を前任者のバーナンキ氏から引き継いだイエレン氏である。しかしその就任宣誓を待っていたかのようなニューヨーク株式市場での株価の急落だった。

株安をもたらした新興国と米国経済への不安の背景には、バーナンキ前議長が着手したFRBの量的緩和策の縮小がある。もともとリーマン・ショック対策として前議長が主導した異例の量的緩和だが、その出口戦略を引き継ぐ新議長には荒々しい市場の洗礼だった。

高名な学者にして、FRB理事などを長年務めた実績から、安定した手腕に期待が集まるイエレン新議長という。ドルの守護者である以上、量的緩和からの脱却を着実に果たさねばならないが、市場の反応はご覧の通りだ。望ましい「出口」への道探しは至難である。

世界中の人々が一喜一憂する例の「本」の価値に影響を及ぼせるFRB議長だ。もちろん異次元金融緩和をとる日本にも人ごとでない彼女のチャレンジである。
（毎日新聞「余禄」より）

問題2 次の文章の（ ）に適切な言葉を入れなさい。（2点×15＝30点）

アゼルバイジャン・バクーで開かれた国連教育科学文化機関（ユネスコ）の政府間委員会で、「和食」が無形文化遺産に登録（1）ことが決まった。日本の食文化が世界から認められたことで、政府は外国人観光客の増加や農林水産物の輸出拡大に期待を寄せるが、（2）の前にまず足元を見つめ直す必要がある。

とりわけ登録を求める声を最初に上げた京都の責任は重い。和食の継承や普及の場面でも先頭に（3）もらいたい。

政府が和食の登録を申請したのは昨年3月。東京電力福島第1原発事故で風評被害を受けた日本食や食材の信頼回復を図り、復興の象徴にする（4）だった。素材の豊かさや盛り付けの美しさなどをアピール、事前審査を担う補助機関が10月に登録を勧告していた。

慣れ親しんできた和食が国際的な評価を得たことは喜ばしい。（5）、これは先人が積み上げてきた蓄積に対して与えられたものだと謙虚に受け止めるべきだろう。

この蓄積を次代につなぐという大きな責務を私たちは（6）。京都の料理人らでつくるNPO法人「日本料理アカデミー」の村田吉弘理事長が、「登録はゴールでなくスタート」と強調する（7）だ。

P.3

日本では1960年頃から、食生活の洋風化が急速に進んだ。コメの消費は減少し、深刻なコメ（8）が生じる。加えて外食産業の拡大が料理の画一化をもたらし、それが和食離れに拍車を（9）。

ユネスコの補助機関は勧告で、和食の意義について「社会の連帯に大きな役割を（10）いる」としたが、若者にも高齢者にも「孤食」が広がっている実態がある。登録された「和食」の理想と食卓の現実は、残念ながら必ずしも（11）しているとはいえない。

対照的に、海外では健康志向とも相まって日本食に熱い（12）が注がれている。和食の普遍的な価値を見つめ直し、食のありようを再考する。登録を契機として、継承や普及に努めねばならない。

京都では新たな動きが始まる。日本料理店での外国人の就労を特例で（13）にする国の特区に京都市が認定された。同アカデミーと連携、料亭などで受け入れるという。京都府では調理技術だけでなく、器など場のしつらえやおもてなしの心など、和食文化を多角的に学ぶ高等教育機関を検討している。いずれも京都（14）の試みだ。

和食の継承で主役となるのは子どもたちだ。出前授業など学校での食育は定着してきたが、今後は家庭の食育を担う大人への（15）が重要になる。なにげなく囲む食卓の大切さ。それは体だけでなく、心をも養うものである。

（京都新聞「和食世界遺産に 継承へ京都は先導役を」より）

問題3 次の文章を読み、文章の結論の部分を150～200字程度で書きなさい。文章は読売新聞「社説：日本史必修化 自国の軌跡を深く学びたい」です。（20点×1＝20点）

日本人としてのアイデンティティを育んでいくためには、日本史の教育が欠かせない。下村文部科学相が、高校の日本史の必修化を検討する考えを表明した。中央教育審議会に諮問し、早ければ5～6年後の実施を目指すという。

日本の将来を考える上で、日本の歴史を学ぶことが必要だ。若者が自国の歴史に誇りを持つようにすることも大切だ。日本史必修化の方向性は妥当だろう。

国際化が進み、日本人が海外で自国の文化などを語る機会が増えてくる。必修化の検討は、国際人の基盤となる教養が足りないことへの危機感の表れとも言える。高校の「社会科」は、1989年の学習指導要領改定で、現行の「地理歴史」と「公民」に分かれた。地理歴史の中では、世界史が必修で、併せて、日本史か地理のいずれかを選択履修するという取り扱いになっている。

その結果、高校生の3～4割は日本史を学ばないまま高校を卒業していると推定される。義務教育段階で一通り、日本の歴史を履修しているとはいえ、高校で理解を深める機会を持たない生徒が少なくないのは問題だ。

日本史の必修化を求める声は自治体などから出ていた。東京都や神奈川県は、独

自教材を作成し、都立校や県立校の生徒に日本史を必ず学ばせている。ただ、必修化にあたっては、検討すべき課題も多い。世界史に代わって日本史だけを必修にすれば、小中高校を通じて外国の歴史に触れる機会がほとんどない生徒が出かねない。例えば、中学校で世界史の要素を取り入れるなど、義務教育も含めたカリキュラムの見直しを考える必要があるのではないか。

R4

世界史と日本史がともに必修となれば、今度は地理を学ばない高校生が増えるかもしれない。地理歴史の総合科目を新設して、必修とすべきだという意見もある。

- ※ 注意：1. 考生須在「彌封答案卷」上作答。
2. 本試題紙空白部份可當稿紙使用。
3. 考生於作答時可否使用計算機、法典、字典或其他資料或工具，以簡章之規定為準。